

第4回クルマ・社会・パートナーシップ大賞

～日本自動車会議所感謝表彰～

大 賞

軽トラ市による 商店街活性化活動

地域振興に加え災害復興にも貢献



全国軽トラ市でまちづくり団体連絡協議会（軽団連）は、全国の軽トラ市によるゆるやかなネットワークとして、2015年11月に設立された。商店街や地域活性化に取組む組織間の交流や連携を促進し、軽トラ市を利用したまちづくりの推進を図るこ

とを目的として組織したという。現在、オプザバーの2団体を含む47団体が参加している。軽団連を構成する主要な軽トラ市は、岩手県雫石町の「元祖しずくしい軽トラ市」、宮城県川南町の「定期朝市」トロントラ市、愛知県新城市の「しんしろ軽トラ市」の3大軽トラ市と呼ばれ、さらに、軽トラ市活動の拡大を目的に、15年から調査研究機関として愛知大学三遠南信地域連携研究センター（愛知県豊橋市）が参加。定期的に全国調査を行い、全国的な調査も行い、軽トラ市

の研究・社会実験的な連携事業を展開する。

軽トラ市のスタートは05年の元祖しずくしい軽トラ市。人口減少などによって衰退する地方商店街を活性化させる策として開始した。雪が降らない5～11月に月1回開催し、これまでに140回の開催実績を持つ。

開始当初から、軽トラ市の名称が特定企業の独占とならないよう、同軽トラ市によって商標登録されていることも特徴の一つ。これにより、誰もが軽トラ市の名称を使えるという。さらに、さまざまな課題を共有し、解決する手段の一つとして、同軽トラ市の

発案により、全国の軽トラ市団体が交流する「全国軽トラ市サミット／全国軽トラ市」を行っている。

19年からは「東京モーターショー」（現ジャパンモビリティショー）にも参加し、軽トラ市の未来を体現する工夫をみせた。24年には、能登地震で復旧が遅れている輪島朝市の復興に、建物の再開発を待たずに実施できる軽トラ市が有効であるとの考えから、輪島朝市の協力を得て、輪島高校、仮設住宅など



で「復興モデル軽トラ市」を開催するなど、モビリティを通じた復興支援・貢献活動に努めている。

全国軽トラ市でまちづくり団体連絡協議会

【共同応募】元祖しずくしい軽トラ市・実行委員会「定期朝市」トロントラ市・軽トラ市事業委員会しんしろ軽トラ市のんほいルロット・実行委員会愛知大学三遠南信地域連携研究センター



【受賞者コメント】この度は、CSP大賞をいただき誠にありがとうございます。軽トラ市は05年の雫石町から始まり、今では全国150を超える開催となっております。人口減少の中で、商店街を活性化し地域を支える重要な手法です。今回は、軽団連と雫石・新城市・川南の拠点軽トラ市、愛知大学の共同受賞ですが、全国の軽トラ市と関係者を評価していただいたと考えております。全国軽トラ市など軽トラ市間のつながりを強めながら、一層の軽トラ市発展に努めたいと思います。



第4回 CSP大賞2024